

読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋・・・といいますが、受験の秋でもありますね。受験準備でバタバタしていたら、10月号を出せないまま11月になってしまいました。原稿を早々にくださっていた図書委員さん、ごめんなさい!!!
さあ、読書の秋です!
図書館便りを片手に、新しい本とどんどん会いましょう!



○24HR図書委員玉田のオススメ!

書名 おおかみこどもの雨と雪
著者名 細田守

おおかみおとこと恋をした大学生の花。
やがて二人の間には子どもが生まれた。雪の日に生まれた姉の「雪」と、雨の日に生まれた弟の「雨」。二人はおおかみこどもだった。そのことを周囲に隠しながら暮らしていたが、突然不幸な出来事が訪れる。父親のおおかみおとこが死んでしまうのだ。花はお転婆な雪と引っ込み思案な雨の育児に奮闘する。やがて二人は成長し、それぞれの道を歩むことに・・・。

狼として生きるのか、人間として生きるのか。それぞれの生き方が見所の一冊です。

○21HR図書委員佐野のオススメ

書名 殺人探偵・天刀狼真
著者名 神高槍矢

ページを開くとこんな文に出会う。「さて、問題です。僕は何人いるのでしょうか?」
何とも奇妙な質問だ。ちなみに正解は543248人らしい。一瞬にしてこちらを混乱させてくれる本だ。

最先端共存都市、白瑠璃市。この都市を舞台に少し変わっている探偵とお人好しだけれどワケありの青年が、いろんな人を巻き込んでバカ騒ぎを起こす物語である。そこに現れた一人の少女。最先端「共存」都市とは?探偵たちの思惑は?少女の秘密とは?最初の声は誰のもの?

物語が進むにつれ怒濤の展開に。
激しく加速していくバカ騒ぎをどうぞご覧ください。



○23HR図書委員系谷の企画!

読書の秋と言うことで、美術部員の方にオススメの本を聞いてきました!

『麦本三步の好きなもの』 住野よる

《あらすじ》

麦本三步は図書館勤務の二十代女子。穏やかで少し天然な、決して特別ではない彼女の視点から語られる「12の好きなもの」についての短編集。

🍄この本のおすすめポイント

三步の独特な感性が楽しめるところがオススメです。ゆるゆるとした日常、でも時に鋭く・・・。一度読み始めると、三步の世界に魅了されます。

🍄こんな時におすすめポイント

気分が落ち込んでいるとき、疲れを感じたとき・・・。
三步の言動にクスッと笑えて心が温まり、元気をもらえます。

この本は、阿波高図書館にあります。皆さんも、秋の夜長のお供に、ぜひ図書館に足を運んで、お気に入りの一冊を見つけてくださいね。

○21HR図書委員小澤のオススメ

書名 セロ弾きのゴージュ
著者名 宮沢賢治

『セロ弾きのゴージュ』はチェロが下手なゴージュがいろいろな動物と出会って変わっていくお話です。

ゴージュと動物のやりとりが面白いです。ゴージュは少し不器用だけど、すごく努力家で、読んでいたら自分も頑張ろうと思えるような内容です。

ぜひ読んでみてください。

○23HR図書委員大山のオススメ

書名 失はれる物語
著者名 乙一

表題作を含む8編の、少し奇妙で、少し不気味で、少し不思議な短編集。もともと本を読むことは嫌いではない僕だが、「読書って楽しい」ということに気づかせてくれた一冊。

この中で僕が特に好きなのは「傷」という作品。他人の外傷を自分の身体に移すことができるという特殊な能力を持ったアサトとその友人である主人公と周囲の人々との人間模様を描いている。裏切られ、辛いことが続き、暗い気持ちになるアサトと主人公。しかし、僕がこの物語から感じるのは、痛みや孤独よりも、支え合うことができる「人」の存在のありがたさと命の尊さだ。

今、心に傷を抱えている人に読んで欲しい。痛みを超えていけるヒントを見つけられるかもしれない。

～12月号は22、25HRが担当します。お楽しみに。～

